

串本古座高等学校

実施日時	2019年 8月 1日(木)
参加者	生徒92名、教職員10名、地域住民等20名 計122名
実施内容	避難はしご体験、津波避難訓練、要介助者避難介助訓練

ねらい

- 1、多様な防災の知識を身につけ、さまざまな状況の災害に対応できる力を養う。
- 2、鉄道乗車中の災害時に生徒自身が地域の率先避難者となれるよう防災意識を高める。

主なプログラム

- 1、避難はしご体験
- 2、津波避難訓練
- 3、要介助者避難介助訓練

概要

1、避難はしご体験

列車内に備え付けられた災害時の車外への避難用のはしごの使い方を学んだ。

2、津波避難訓練

列車乗車中に地震とそれに伴う津波が発生したことを想定し、避難はしごを用いた列車外への降車、および付近の高台への避難訓練を行った。

3、要介助者避難介助訓練

二人一組で介助者役と要介助者役に分かれ、実際に介助を行いながら要介助者と一緒に避難を行う際のポイントを学んだ。

参加者感想文

- ・率先して声をかけることが大切。
- ・避難には相手への配慮が必要だと分かった。
- ・白い杖を持っている人がいれば役に立てたらいいと思う。
- ・避難の時に前の人が止まっていると実際は焦ってしまうと思った。
- ・体の不自由な方は怖い思いをしているのだと思った。
- ・体に不自由があったら怖いから、そういう人を見たら一緒に逃げたいと思った。
- ・前に人がいたら安心して行動できる。
- ・列車からの避難は少し高くてびっくりした。

- ・率先してくれる人がいると迷わず行動できる。
- ・周りに人がいてくれると迷わず避難できる。
- ・大きな声で誘導してくれると迷わず避難できる。
- ・みんなが逃げているところについて行くことで迷わず行動できた。
- ・足場が悪いと、避難時にあまり走れないことが分かった。
- ・津波が迫っていることを知らせてくれたのでよかった。

成果と課題

【成果】

本校は沿岸部に位置しており、南海トラフ巨大地震等でも津波による浸水被害等が予想される地点でもあることから、地震津波に関して日頃から関心を持ち防災教育を行っている。今年度は、JR西日本との協力で、津波災害を想定した列車からの避難訓練を行った。本校には多くの列車通学生が在籍しており、列車を利用する生徒が災害発生時に地域の率先避難者となれるよう避難はしごの利用訓練や要介助者への避難介助訓練を行った。実際に列車を緊急停止させての避難訓練など、普段は体験できない訓練内容を体験でき、生徒からは「率先して声をかけることが大切」、「避難には相手への配慮が必要」との感想が寄せられた。

【課題】

今回は1年生のみの体験であった。今後はこの経験をどう全校に広げていくか、また、今回訓練を体験した生徒たちが、災害避難や率先避難者としての心得を周囲の人々や年下の世代等にどのように継承していくかが課題である。

